

平成 17 年度 石川県クラブマネジャー要請講習会(中級編)

開催日 平成 17 年 10 月 1 日(土)

開催会場 石川県体育協会会議室

第 2 回 NPO 法人ごうどスポーツクラブを解剖する

【講義録】

NPO 法人ごうどスポーツクラブの活動

プレゼンター 小倉 弼郎氏(NPO 法人ごうどスポーツクラブ会長)

平成 10 年から立ち上げ準備

体育指導員が中心になってスタート

平成 11 年行政への働きかけ

平成 13 年協力者、既存団体へ働きかけ

既存団体を避けて通ることは、問題を先送りすることになる

「われわれに相談がなかったじゃないか」とならないために

より多くの協力者とより多くの説明会 / 年 70 数回 体育協会への単位種目へも回った

学校からの賛同があまり得られなかった 職員会議等に積極的に参加

クラブができることで色々な効果があることを強く訴え続けた

- ・ 地域が目指すクラブの具体例
- ・ クラブでこんな夢が実現します
- ・ クラブでこんな地域が実現します

できない言い訳を探すのではなく、できることを探すエネルギーを！

神戸町の特徴

小学生はピーク時の半分、少子化が進んでいる

1市9町広域合併の話が破綻

地域における問題

運動をする子、しない子の二極化

小さなころから専門的に特定の種目に取り組むことが多いことの弊害

ex: 野球少年がバスケットボールをして普段使わない筋肉を使ってケガをした

地域連帯感の希薄化
自治体の行財政改革

目指したもの

スポーツ実施率の向上とスポーツ環境の整備
行政・既存団体(体協・スポ少・学校等)との協働
自主財源による住民主導の主体的運営

いやがおうにも変わる日本のスポーツ環境を容認

日体協がクラブ育成に取り組むことからその姿勢がうかがえる

メリットは？という質問へ明確な解答を持たなければいけない

個々のメリットをこえた議論をしてもだめ、説明会等の参加者(指導者や地域住民)自身も地域へメリットを与える立場になりましょうということを提案

神戸町教育委員会における人材不足

行政のボトムアップの実効性に問題

狭間にたつ行政担当者が働きやすい環境を提供

町長室へも出入りを繰り返した

役場の職員全員を集めて説明会を行った

既存団体との強調

・体育協会

行政の手厚い保護の時代はもう終わり

* 役員の意識改革

* 種目協会のオープン化を それが総合型への第1歩

中学校への指導者派遣

大学キャンパスを利用して体協指導者が中学生を指導

サッカーでも交流大会等を開催

・スポーツ少年団

* 指導者の意識改革

* 種目のオープン化

さらに保護者も参加できるような仕組みづくりを

勇気を持って練習を‘休む’ことも指導者にとっては必要なこと

スポ少加入率が60%を維持 スポーツ活動が盛んな町

スポ少意識調査より

(保護者より)体力づくり・友達づくり・礼儀作法といった点に票が集まった

(こどもより)そのスポーツが好きだから・うまくなりたい・友達ができる

神戸少年団への加入 = クラブへの加入(全少年団のクラブ加盟)

全10種目の中で、月1回のオープンデーの実施

・中学校部活動

勇気を持って地域に飛び出してほしい！

先生が地域に出ることで活動の信用性も高まる

* 顧問教師の高齢化 新規採用枠減で超多忙

実際にやって見せることができない、ことばでの指導がメインに
中体連でも複数校合同部活動を認め始めている

中学校部活顧問 + スポ少指導者での会議を開催

第1回行政の会議室 中学校教員の参加者が少なかった

第2回の会議 中学校会議室で実施でより多くの参加者を確保

意外と少ない両者の交流

小中一貫指導 6種目で月に1回中学生が小学生に指導、一緒に活動 指導者も交流

指導者の存在 = 地域の教育力向上に貢献

多くの子供に触れる存在が地域にいて、非行の芽を摘む声かけが増える

オープンデー、小中交流で認知する子供の数がさらにアップ

平成16年度プログラムの印刷費が稼げない

スタッフが奔走して資金繰りをした

平成17年度自主財源率は80.4%(予算ベース)

活動の自己評価

・ 施設利用率の向上

・ 国保にかかる町助成費

増加する傾向は変えられないが、そのペースを緩めることができるはず

財政基盤の確立

活動支援(クラブサポーター)ご協力をお願い

16年度(40社)400,000円

17年度(102社)1,900,000円

単に金集めに終始するのではなく、きちんと理念を説明することを念押し

ごうどスポーツクラブを解剖する1

講師 南木 恵一氏(富山県広域スポーツセンター)

関係団体の関わり方

体育協会は 豊富な指導者

スポーツ少年団は 40年の歴史 本来は小学1年生から19歳まで入れる 卒団式の存在

学校部活動は

体育指導員は

行政は 各市町村ごとのマスタープランを(合併前に)

それぞれの得意分野を地域のために提供しよう

文化団体、青年団、商工会、公民館、婦人会、JC等の団体ともどのように連携していくか？

神戸の八光会(地域をどうにかしたいというマンパワーが結集している)

地域を構成しているメンバー

小学校、中学校、高等学校、PTA

公民館、自治会、婦人会、青年団、老人クラブ、商工会

スポ少、体協、体指、レクリエーション協会

行政、文化団体、福祉団体、ボランティア団体

設置目的はどこにあるか？多少は誰か？

そこをつかむことでよりうまい連携をとることができる

交渉をうまく進めていく材料になる

ステークホルダー

地域を構成しているメンバーは何らかの形で利害関係がある

反対者を作らない。賛成者を作る。

積極的な協力はできないけど、反対はしない

利害関係者会合(ステークホルダーミーティング)を開催する

来てください 自分から足を運ぶ

クラブマネジャーに求められるもの

ネゴシエーション能力(交渉能力)

両者にとって利益になるよう、提案・導き出し WIN - WINの関係づくり

ファシリテーター(調整能力)

場を作る

そそのかし

ともにあり

部活終了後の中学校 3 年生のための活動(週に 1 回土曜日午前中に開催)

地域の中で埋もれているニーズを掘り起こすことが大事

3 歳までの子どもを持つお母さんたちのためのスポーツ教室

こすぎスポーツクラブ キラリ スポーツをしている時間 < 子育て相談 = 地域づくり
クラブでやることのメリット

行政での事例 予算の関係から定員 30 名に対して超過応募をカット

クラブ 45 名を受け入れるように、託児担当、指導者、会場を調整 この違いがクラブのメリット

事例)おおしまスポーツクラブにおける地域説明会

短い時間でもきっちり説明をする

説明会のマニュアル作り

時間的マニュアル、答弁内容、人員配置、資料配布のタイミング、予想質問

全行政職員を対象に

関係者には随時説明会を行っていく必要がある

意見交換

各地域での連携の現状をそれぞれの立場からいただきたい

行政担当者として

辰川(加賀市): 指定管理者制度を民間でしようとしている、市からの補助なしでどうかという話が出ている

神戸の場合は市の体育館を指定管理者制度等を導入しているのか?

クラブマネジャーとして

門前SC: 体育協会の理解が得られなかった、メリットは何だ?

行政から手厚い保護を得ている体育協会は何もしようしない。

学校の先生はチラシも配布してくれない。

理念は同じでも実際に協働していくための手法がわからない、そこを教えてほしい

体育協会から

小泉(パル): 立ち上げは文科省からの提案。当時七塚町の体育協会長。

これまでの活動に釈然としない部分があった。その中で総合型に出会いこれだと感じた。

これまで体育施設を無料で使わせてもらってきた。石川県の場合県民体育大会を目指して各競技団体に行政が全面的に後押ししていた。現在は無料の施設使用状況を有料化していく必要がある。それを総合型クラブが一括納入すればいいのではないかと考えている。しかし現在は体協内での意見がまとまらない所がある。

金沢市体協: 反対はそんなにない

クラブの立ち上げをどこから始めたのかを聞きたい

体指として

高山: 金沢で一つというのは無理。金沢では各小学校の地区単位から体指が 2 人ずつ。地域の関係団体には

声掛けをしている。地区ごとに全所帯からの負担金 25%と行政 75%の合資で公民館活動をしている。その中にスポーツ活動をしている。活動場所は小学校のみ、今年度から中学校も解放してもらっている。すでに負担金を集めている上にクラブで別のお金を集めてやっていくのが難しいように感じている。

小倉氏からの回答

- ・ 組織の硬直化がひずみとなって現れてきている
- ・ 現状の問題をドンドン提起していく 今やっている人は一生懸命 その先は
- ・ 子供たちの将来のスポーツ環境を担保するためのクラブであることを主張
- ・ 体育協会はこれまでのスポーツをになってきた、これからもなっていることを考えているか？
- ・ 協力はしてくださいよ、邪魔しないで下さいよとお願い。
- ・ 神戸町体育協会の会員は 2,000 人のまま継続推移 メンバーが変わっていない
- ・ 施設利用料が無料 昨年度徴収しようとしたが、町議選の材料となり実現できず
- ・ 来年度実施、クラブ会員のみ無料ということにしていきたい
- ・ 体指のコンセンサスを得ることが大変だった できなかったらどうするのか、という意見が出た
- ・ 50 名で準備委員会をスタート(町内の全関係団体を集めて) その後増員した より広く情報をまわす

南木氏からの回答

- ・ こどもの将来のためにというのが最も説得力がある
- ・ これまでにない分野から初めて範囲を広げていったクラブもある
- ・ 学校開放の利用者を調整する際には、実際に飽和しているかどうか
- ・ 19 時から 21 時の活動団体・・・実際の活動は 19 時 45 分から
サークルメンバーに指導を頼んで指導者向けの教室を 45 分間クラブが企画 多数の参加
サークルメンバーの増員にもつながる
- ・ スポーツの原価意識を持ってもらうべき 受益者負担

榎: 地域の問題を知り、それを共有し、みんなで協働していくことが重要になる

ごうどスポーツクラブを解剖する2

講師 奥田 睦子氏(金沢大学経済学部 講師)

機能する運営組織

	非営利組織	営利組織
構成員	正会員(組織に趣旨に賛同)	株主(投資)
役員	理事・監事(無報酬)	取締役(報酬制)
有償役務者	有給スタッフ	会社員
無償役務者	ボランティア (誰でも・高度な専門性)	なし
組織系統	個人の自発的意思	組織としての命令

非営利組織の特徴

収益が上がっても報酬として還元されることはない

どのようにモチベーションを高めていくべきなのか？

小倉氏:ごうどスポーツクラブには就業規則がまだない

民間企業的な厳しいメンタリティで臨んでほしいが今は期待をすることしかできない

ごうどスポーツクラブの組織

奥田氏:人の配置について戦略的であるのか？個人の希望であるのか？

小倉氏:全ての委員会に体育指導委員会を配置

マネジメントには会計士など専門的配置

広報委員会には役場職員の広報担当を配置

スポーツドクターのボランティアもいる

奥田氏:人員の入れ替わりについては？

小倉氏:各委員長の裁量に任せている

委員の移動は2、3あった(家庭の問題、委員会内の人間関係の問題)

永続的に責任を持ってクラブ関わるボランティアだけでなく、気軽に参加するようなスタイルのボランティアも必要になってくるのではないか

どっぷり
とことん

→

思いついたら
なんとなく、とりあえず

というスタイルのボランティアになってくる

ボランティアとしてのクラブへの関わり方のパターン

運営スタッフとして

会費支援として(ふくのスポーツクラブには1,000名程度のスポーツ不参加会員がいる)

奥田氏: ボランティアの数は足りているか?

小倉氏: 足りている、機能している

各委員会は月に1回開催

委員長会で意見を集約 運営委員会へ提案

奥田氏: 指導者講習会の中身は?

小倉氏: 会長からクラブの現状、クラブの理念を説明・確認

外部指導者にはスポーツ指導について講義をお願いする(熱中症対策など)

指導者も支えるばかりではなく、支えてもらえるような仕組みづくりが大事

クラブマネジャー、運営スタッフの仕事ぶりが会員に見えているかどうか?

ボランティアのモチベーションとして自分たちのやっていることがちゃんと効果を得ている、ミッションが達成されているといった評価を与えることが大事、自分たちががんばっている成果をみせたい

クラブの課題と将来展望

財政面 企業寄付金

奥田氏: ごうどの場合どのくらいの理解度があって寄付をもらっているのか

小倉氏: 寄付ではなく‘投資’であることを重視

担当者がどれだけ説明ができていないかわからないが、理解を得ているところも出てきている

地域貢献をしたいという気持ちを持った企業は多いので、そこへクラブが事業提案していくこともできるのではないだろうか

【感想】

西村: 有給スタッフである自分と

小倉氏: 専従スタッフに対しては自分たちがやるのではなく、自分たちの手の上でスタッフを動かせるようにしてくださいとお願いしている。

福原氏: 有給スタッフとボランティアの関係で見たNPOの類型(配布資料参照)では右にシフトしていくこと(有給スタッフのみでまかなえることが理想になるのか?)

奥田氏: どこがいいというのではなく、どの位置にあってどの位置を目指すかが大事

福原氏: クラブにおいては有償のスタッフが必要、就業規則がないことは職員の自主性にかかるところが大きいのではないか

小倉氏: 規則を作るような指導が入っているが、その規則に乗ると人件費等でクラブの運営が成り立たない

小倉氏: 運営委員のスタッフから「これが本職ではない」という言葉が出ないようにしていかなければいけない。
モチベーションをあげるためにクラブの全国的な知名度を上げるということも考えている

山口氏: 自分のやるべき範囲がどこまでなのかを把握しておく必要である
活動を認めてあげる必要がある。認知度を高めてあげる必要がある。

ごうどスポーツクラブを解剖する3

講師 山口 泰雄氏(神戸大学発達科学部 教授)

アームチェアスカラーになるな!

社会学者として座って本を読んで理論を勉強して全てが解決できるのではない、現場に出て学ぶことが大切

クラブハウスの活用と発展

クラブハウスの機能

会議室か? 飲み食いは不謹慎か?

会議機能、交流機能、情報機能 ex: ラダーによるランキング表示

参考: 『スポーツボランティアの正体』 世界思想社

クラブハウスの重要性

交流機能を!!

レストラン、バー、ホール、体育館、テニスコート、ジム、BBQ、子どもの遊具、会議室、ゲーム、パソコン

スポーツクラブ21 ひょうご

2000年CSR事業

県下828小学校区に1300万円ずつの補助(運営補助、クラブハウス補助)をする 総合型クラブを設立

背景には神戸連続通り魔事件があった

スポーツクラブ21 かわなべ

ユニークな会員証

活動記録表、カロリー計算表、ストレッチ、緊急時対策、ウォーキングマップなどが書かれている

年度末には表彰をする

総合型クラブの衰退要因

クラブ設立自体が目的

補助金終了後消滅

- 1) 行政主導による運営
- 2) あて職による運営委員
- 3) リーダーシップ、指導者不足
- 4) 高額謝金、定額会費
有資格者、無資格者での格差など
- 5) 補助金期間だけ運営すればよい？

行政との関係

行政全面依存型：危ない

パートナー型：協働、情報、活用

自立型 行政と一線を

「指定管理者制度」

ごうどSC「全町総合クラブ」

総合型スポーツクラブデー その他の活動を事前にストップ、みんなが集まってイベント等に参加

全町総合クラブの達成に向けて既存団体の折衝がうまくいった細大の原因は？

小倉氏：自分が体指であり、体協の理事長をしていたことがある

総合型クラブが目指すものは：理念と使命

教室のネーミングにも工夫を

「卓球教室」「今日からはじめるビギナー卓球教室」など

チルドレン・ファースト

子どもの環境の問題は世界的にさげばれている

豊かな長寿社会の創造

総合型クラブ育成への提言

短期・中期的視点に立った「わがまちクラブ」づくり

チルドレン・ファースト！

前例がないから、やってみる

質疑応答

Q. 総合型に講師として参加しているが、講師は担当教室だけでなくクラブ全体での指導者同士の横のつながりを持つべきなのかどうか？

A. クラブへの愛着がわく、帰属意識が高まり指導へのモチベーションも高まるのではないか

Q. 説明会での注意

A. 協力依頼をする、クラブができることで生まれるメリットや可能性を提案する。

クラブのペナントなどクラブへの愛着をもってもらう工夫

感想

白山市体育協会

ちょっと進んだ話だったので、自分だけ先の勉強をしても思ったが今後のための参考になった
行政で話は出ているが、まだ進んでいない

初級編があればと思う。

既存団体がしっかりしているために、総合型への疑問が残っている

能登町(スポーツ振興事業団)

新しいものは取り入れるということに遅れているように感じている

総合型はまだ新しいもの

担当課のものと協議等しているがなかなか乗ってこない 忙しくなるからやらない

自分がやろうと言い出すと自分がやらなくちゃいけないという感じになるのではないか

いずれクラブ職員や事務員を雇うことすら難しいのではないか

やる気のある人は忙しいのではないかと思う

行政は移動してしまう、スポーツ振興事業団の中で総合型地域スポーツクラブの業務を実施していけばいいのではないか

合併後校舎が3つある、それを合併していいのだろうか

施設の管理をしているだけの職員しかいないところがある。そういった職員がクラブに関わるのがいいのではないか

高山さん

金沢にもスポーツ事業団がある

そこでは施設管理の調整やスポーツ教室の企画運営も行っている。そこがクラブ育成をになっていけばいいのではないかと提案しているが、金沢市としてはそれをしてしまうと住民の自発的な取り組みでなくなってしまうのでできないという意見がかえってくる。

金沢はエリアが広いので一つのクラブでは全体をカバーしきれない

各地区の公民館活動(50年の歴史がある)を変えることはできない、各世帯から負担金をもらっている

公民館主催事業

イベント:スポーツフェスティバル、社会体育大会約50%

少年団:サッカー、野球、ソフトボール、ミニバス、バレーボール

大人のクラブ:7つか8つある

施設利用調整会議をおこなっている

小学校施設、地域内の公園、
それがすでに総合型クラブの素地はある
参加費も徴収している

ブラッツうちなだ

スポ少のトップ、体協のトップ、体指のトップ等を集めて視察に行ったり、意見交換を繰り返して半ば強引にまとめて見切り発車をしたところもある
反対意見をも押し切って進めていくことも必要だった

金沢は施設数が絶対的に少ない

総合型が目指しているもの

中学校下で3つの公民会がある。その間での交流をしていったらいいのではないか。
学校は外部からの指導者を入れてほしいという声がある
現在は11名の外部指導者が入っている
学校開放として中学校を大人が使用することに許可が下りない

協会の種目で年中通して練習しているところは少ない
中学生の子どもたちと体協との合同教室を企画したところ20名の参加があった
今年度は45名が参加(部活動にない種目を実施)

広報も全所帯へ3回しているが見られていない
学校へチラシの配布をお願いしたが配ってもらえなかった経緯があった

指導者の中でも総合型クラブのことを良くわかっていない人が多い
広報誌、チラシ、HPで広報してもしれていない
じかに広報を持参して説明していくようにしている

金沢市からのビジョンが必要

新しいことを進めるのは大変

関係団体を結びつけてより拡充していくことが必要なのではないか